このような活動を行ってきました！

- ナイトファンタジーイリュージョン（高砂海浜公園）
- 高砂海浜公園清掃活動
- あらい浜風公園オーナー花壇
- 荒井地区まち歩き（荒井ふるさと再発見し隊）
- 高砂地区まち歩き（歴史ガイドクラブ）
- 平成 30 年度高砂夏休み子ども教室（各企業）
- 旧入江家住宅夜間特別公開

海浜公園の清掃で環境学習

地域資源を発見！荒井地区まち歩き

入館者数が 3 万人を突破！工楽松右衛門旧宅　兵庫県『人間サイズのまちづくり賞』受賞！

平成 30 年６月から一般公開されている工楽松右衛門旧宅の入館者数が、当初の見込みより遥かに早く３万人を突破しました。

また、兵庫県が県民の参画と協働による“人間サイズのまちづくり”を推進するため、平成 11 年度に創設した「人間サイズのまちづくり賞」において、平成 30 年度のまちなみ建築部門賞を受賞しました。

多くの皆さんに親しまれ、高い評価を受け、高砂の観光拠点になりつつある工楽邸は、江戸時代に加古川舟運や海運の港町として繁栄した高砂の南堀川の船着き場の前にあります。主屋は本瓦葺き木造 2 階建ての江戸時代後期の建物です。平成 28 年 1 月には、市指定文化財に指定され、1 年 4 か月の修復期間を経て一般公開されました。約 200 年前の巨大な梁や柱組みをはじめ、間取りや使い方など当時の生活の様子を伺い知ることができます。

是非、足を運んでみてください！！

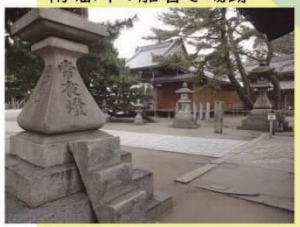
人間サイズのまちづくり賞
工楽松右衛門旧宅
高砂市 様
貴殿は県民の建築物を復元・安全で美しい魅力あるまちづくりに大きく貢献されましたその功績を讃えこれを賞します
平成三十年十月十一日
兵庫県知事 井戸敏三

祝！！3 万人突破

日本遺産『北前船寄港地』に高砂市が追加認定されました！

平成 30 年５月、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に高砂市が追加認定されました。

南堀川の船着き場跡


高砂神社

北前船は、江戸時代から明治時代にかけて、日本海から瀬戸内海を通って、北海道から大阪を結んだ航路を往来しました。様々な物資を運搬し、航路上に点在する港を結び、文化交流しました。

高砂にも北前船が帰港した記録があり、江戸時代の町並みや港遺構等が保存され、工楽松右衛門が発明した松右衛門帆が北前船に用いられたこともあり、日本遺産に認定されました。

北前船の寄港地や船主集落は、時を重ねて彩られた異空間として、今も人々を惹きつけてやみません。

堀川周辺の町並み

日本遺産　認定証

高砂みなとまちづくり構想推進協議会　高砂みなとまちづくり構想推進協議会　高砂みなとまちづくり構想推進協議会　高砂みなとまちづくり構想推進協議会

第 12 号　平成 31 年 3 月

みなとまちづくり瓦版

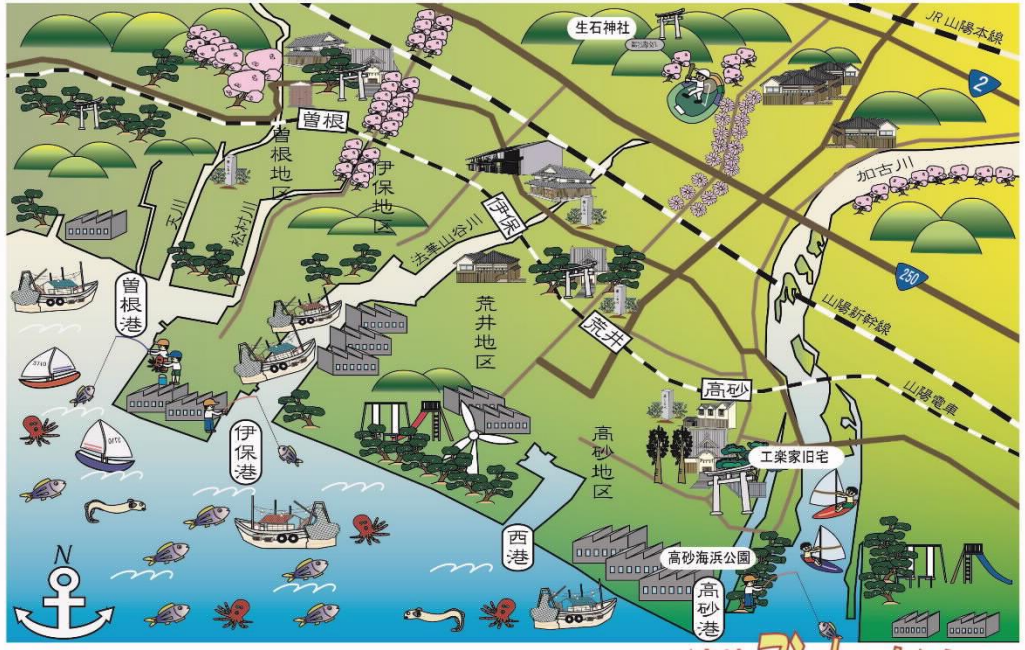
みなとマッチ

インターネットのアドレスだよ！ http://www.city.takasago.lg.jp/index.cfm/19,0,196,958,html

高砂市では、臨海部がもっと元気になるため、住民と企業と行政が一緒になって「高砂みなとまちづくり構想」を策定しました。構想の基本理念と施策を具体化するため、市民、企業、関係団体、専門家、行政などが一体となって取り組むためのプログラムとして「高砂みなとまちづくり行動計画」をつくり、様々な取り組みを行っています。

「みなとまちづくり瓦版」は、高砂みなとまちづくり構想の取り組み状況をお知らせするとともに、高砂市臨海部の魅力をもっと知ってもらいたいと「高砂みなとまちづくり構想推進協議会」の有志が集まって作成したものです。

みなとまちづくり　検索
入力して「検索」をクリック！



高砂の浦は、古くから風光明媚な地として全国に知られ、県立高砂海浜公園は「日本の白砂青松 100 選」に選ばれています。また、高砂神社には一本の根から雌雄の幹が左右に分かれている「相生の松」が生えており、縁結びと夫婦和合の象徴として親しまれてきました。このマンホールの蓋は、これらをモチーフにしたもので歴史的景観形成地区にある工楽松右衛門旧宅の周辺にあります。

近くには高砂市のゆるキャラ「ぼっくりん」をモチーフにしたマンホールもありますので、是非、探してみてください！

ご当地マンホールを探せ！！

ぼっくりんがいるよ！
白砂青松、相生の松！

高砂みなとまちづくり構想推進協議会　高砂みなとまちづくり構想推進協議会　高砂みなとまちづくり構想推進協議会　高砂みなとまちづくり構想推進協議会

高砂市の魅力探訪

食べとこ案内

（株）籠谷って、どんな会社？！

高砂市荒井町で大正10年（1921）創業で97年を迎える飼料の卸販売、鶏卵の加工・製造・販売、最近では電気設備工事の施工・管理も手掛けている（株）籠谷をみなさんご存知ですか？！

当初、鶏卵事業は市場への販売のみでしたが、パック包装へと転換するに併せて、昭和62年にグレートパッキングセンターを設立し、スーパーマーケットでの販売へと変化していきました。その後、平成4年からは、鶏卵の加工商品の開発・製造へと事業の幅を広げています。

卵、アイスクリーム、プリンおいしいよ！

平成19年には、商品の多様化により荒井町新浜に浜風工場を建設し、更なる業務拡大に伴い、新たに浜風第2工場を増設しました。

自社製品は、荒井町東本町の「たまごのお店籠谷」でも販売しており、7月1日よりレストランキモト跡地（荒井町若宮町）にて新店舗を開設し、商品の販売等をするため準備を進めています。

「経営理念である『地域社会に貢献できる生活創造企業』をモットーに、今後も地元に密着、愛される企業として頑張っていきます！！」と代表取締役社長栗原直樹氏は力強く言っておられました！

地元で頑張る方々をみんなで応援していきましょう！

産業ミュージアム部会　網千年明

知っとこ案内

謡曲「高砂」の物語

肥後の国（現在の熊本県）阿蘇の宮の神主友成は、都へ上る途中、高砂の浦に立ち寄ります。

そこに老夫婦が竹杷（さらへ※2）と杉箒（すぎぼうき）を持って現れ、松の木蔭を掻き清めます。その老夫婦に神主は高砂の松について問いかけると、尉（じょう）は、これこそが高砂の松で、自分は住吉に住み、妻の姥（うば）は高砂に住む夫婦であると教えます。

夫婦でありながら離れて住んでいることを不思議に思う神主に、姥は、心が通い合っていれば離れていても遠くはないと答えます。

さらに、松は古くから和歌にも詠まれ、四季を問わず、千年変わらぬ緑をたたえており、中でも特に名高い高砂の松は、末代までも相生の松と言われて、めでたいものであるとそのいわれを語ります。

そして、この老夫婦は、私たちは高砂と住吉の相生の松の精であり、住吉で待つと言い残して、沖の方へ姿を消しました。

神主は、高砂の浦人（うらびと※3）に先ほどの老夫婦に出逢ったことを話し、浦人の船に乗って住吉へ向かいます。

住吉に着くと住吉明神が現れ、月の光が残雪に輝く中、住吉明神は神々しく颯爽（さっそう）と舞い、平和な御代を祝福するのでした。

「謡曲合唱団たかさご」と参加者が一緒に謡っている様子

「謡曲合唱団たかさご」による仕舞「高砂」

高砂こども狂言ワークショップ

次代を担う子どもたちに、古典芸能である能狂言に触れる機会を設けることにより、謡曲「高砂」ゆかりの地であるふるさと「高砂」に親しみを感じ、文化を大切にするこころを育むことを目的に実施しています。

謡曲「高砂」は、おめでたい曲の中でも最も祝言性が高く、大事にされている曲です。

永遠の生命を表す「松」を主題にし、「相生の松」は夫婦和合の象徴でもあるところから、結婚式でも必ず謡われたものでした。

高砂文化教室「高砂学」謡曲編

高砂市文化振興基本方針において、謡曲「高砂」を高砂を特徴づける重要な文化素材として位置づけており、様々な場面で謡曲「高砂」に触れる機会を設け、ふるさと高砂に親しみを持つきっかけとなるよう取り組んでいます。

行っとこ案内

菅公ゆかりの「梅の井」と「渚の井」伝説

延喜元年（901）に菅原道真公が讒言（ざんげん※1）により、九州・大宰府に左遷される途中、伊保の港（現在の高砂市梅井付近）に船を寄せられ、村人に飲み水を乞い求められた。

しかし、海辺のため塩分が濃く、水質が悪いのを知った菅公は、村人に清水の湧き出る処を教えた。村人は喜び、一丈四方を浅く掘ると、清水が湧き出した。水量を求めて深く掘り浚（さら）えると、かえって水質が悪くなったため、急ぎ浅く埋め戻した。村人は、それを茶の湯や生活用水に用いた。菅公は梅の枝を持って、この井戸に自らのお姿を写された。それ以後「梅の井」と呼ぶようになった。

「梅の井」移設中

また、この井戸は常に一定の水位を保っていた事から「不滅不増の井戸」とも呼ばれたが、昭和56年に梅井沖の梅の井緑地に移転され空井戸となった。このたび、平成31年3月に地元の梅井緑地へ里帰りした。

菅公はその後、加茂神社へ参詣のため賀茂条（伊保崎中部）へ立ち寄り村中の井戸で御手を清められた。当時その辺りは、渚であったにも関わらず真水が出たので「渚の井」と呼ぶようになった。

そして、曽根まで歩き日笠山に登られた。その時、山上の小松を引き抜かれ、麓に下りて、「我に罪無くば栄えよ」と、小松を植えられた。それが「霊松・曽根の松」であると伝わる。

「渚の井」

歴史ミュージアム部会　唐津哲男

むずかしい言葉の意味を調べてみよう！

※1 讒言（ざんげん）：他人をおとしいれるため、ありもしない事を目上の人に告げ、その人を悪く言うこと。告げ口、悪口など。

※2 竹杷（さらへ）：長い柄の先に粗い歯をつけた、熊手のような農具。土をかきならしたり、木の葉やごみなどをさらうのに用いる。

※3 浦人（うらびと）：漁師など海辺で生活する人

編集；みなとまちづくり瓦版つくり隊
発行；高砂みなとまちづくり構想推進協議会
【お問い合わせ先】
高砂市まちづくり部まちづくり推進室都市政策課
開庁時間　8：30～17：15
〒676-8501　高砂市荒井町千鳥1丁目1番1号
TEL 079-443-9033　FAX 079-443-9091
Email:　tact3810@city.takasago.lg.jp